

## MY STORY

### 『スタッフT(50歳)の【脳動脈瘤】入院手術体験記』

#### 「まさか私が脳動脈瘤…？」

それは2024年の1月中旬のこと。初めて脳神経外科にてCT検査を受けた日、先生から『脳動脈瘤があるね』とサラリと言。思わず『へ？』と聞き返してしまいました。というのも、日々お客様からの保険の請求連絡を受ける中で『年齢的にもそろそ一度、脳の検査でも受けておこうかな』と軽い気持ちで受けた検査だったからです。自分の脳内血管のリアルな3D映像を見ながら、右目奥の血管分岐点に未破裂脳動脈瘤があることを説明されました。まさに寝耳に水の出来事でしたが、とりあえず半年後に再検査となりました。

7月の再検査の結果、状態が変わらなかったため、経過観察を続けるか、くも膜下出血予防のための手術をするか選択を迫られました。動脈瘤と言っても、場所やサイズ、形状等はひとそれぞれですし、100%破裂するとは限りませんが、常に心配しながらの生活もストレスに感じたため、手術を選びました。

その後、紹介された脳外科の先生に詳しい説明を受け、脳の血管内にコイルを入れて治療するカテーテル手術を受けることになりました。治療内容についての説明が端的でわかりやすく、質問もしやすい雰囲気だったため、先生を信頼してお任せすることができました。

#### 「突然の事故」

9月下旬、入院手術の予定だったのですが、なんとその2週間前、自転車で転倒して救急搬送されてしまいました。しかも転倒時の記憶がなく、救急車で救命救急士の方に『どうされました？』と話しかけれ意識がもどったのでした。おそらく道路脇の砂利で自転車のタイヤが滑ったと思うのですが、後から思えば入院準備、仕事の調整、家族へのフォロー、子どもの学校のPTA活動等の様々なタスクに追われて、当時は注意力散漫だったような気がします。顔面骨折したため急遽、脳外科の入院日程を変更し、形成外科での入院手術を受けることになりました。

お客さまをはじめ、関係者の皆さまに大変なご迷惑をおかけしてとても申し訳なく、病室から東京タワーの夜景を見ながら、『わたし、何やってんだろ…』とさすがに落ち込みました。

#### 「今回の入院手術を通して」

顔面骨折の手術を終え、10月に脳外科にてカテーテル手術を受けました。どちらも5日間の入院となり、2ヵ月続けて全身麻酔を受けたせいか、しばらくはかなり倦怠感がありましたが、お陰様で現在は元気に生活できています。病気やケガもなく日常生活を送れることはかけがえのないことだと感じ、お世話になった医療従事者の皆さま、ご心配頂きました皆さまへの感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

また、今回の2度の入院を通じて、検査や手術、薬代等の医療費に加えて、病院指定のパジャマ等レンタル代、食費、交通費、Wi-Fi代等、出費も多く、高額療養費制度では賄えない医療費以外の自己負担の出費は少なくありませんでしたが、加入していた医療保険からの給付金があったことで、負担軽減になりました。

後悔している点としては、最初の検査を受ける前に、三大疾病(がん・脳血管疾患・心疾患等)の保障を手厚くしておけばよかったということです。私のように、診断されてすぐには保険を見直すことが難しいため、なるべく健康な時に、保障内容をバージョンアップしておくことを心からお勧めします。

#### 【脳動脈瘤とは】

脳動脈瘤とは、脳の血管の一部が膨らんで瘤(こぶ)状になった状態のことです。多くは未破裂の状態で見られ、症状がないことがほとんどですが、破裂するとくも膜下出血を引き起こす場合があります。破裂の危険性が低い場合、定期的な検査で経過観察となります。



## お客様インタビュー

### 「笑顔と野菜たっぷりのどんぶりを届けたい」

#### がんとの闘いを経てキッチンカーで再スタートした女性の物語

静かな笑顔でキッチンカーの窓から「いらっしゃいませ」と迎えてくれるその女性は、ただの料理人ではない。2020年、乳がんと甲状腺がんという二つの病と向き合いながら、人生を見つめ直し、新たな夢に舵を切った。彼女が始めたのは、野菜中心のどんぶり専門キッチンカー。「Lotta」という名前には、「たくさんの思い」が込められている。



#### ■「自分のペースで、無理なく。でも、手は抜かない」

彼女のキッチンカーでは、大豆ミートを使ったヘルシーな『タコライス丼(ロッタ丼)』が一番人気。加えて、毎日メニューが変わる『日替わりワンコイン丼』や、おかず単品も提供されている。「大豆ミートはお肉を食べられない外国人の方にも喜ばれていて」と語るその声には、自信と優しさがにじむ。2024年7月にキッチンカーを開業してから、もうすぐ1年半。現在は週に数回、イベントや道の駅などに店出。声がかかれば、できるだけ断らずに出店するというスタイルで、地域に根ざした営業を続けている。

#### ■「がんの発覚。「なんで私が？」

2020年、がんが見つかったとき、彼女はただただ驚いたという。「市の健診で2年連続で再検査の通知が来て…。病院で検査を受けたら、乳がんと甲状腺がんの両方が見つかってしまっ。」1年の間に2度の手術。放射線治療、抗がん剤治療。そして今も毎日、ホルモン剤を1錠飲み続けている。「がん保険に入っていたことは本当に助かりました。治療費の負担が減って、治療に専念できたのは大きかったですね。」長い治療期間を経て、彼女は「もう我慢するのはやめよう」と決意する。

#### ■「我慢しない」人生へ。そしてキッチンカーへ。

「人生は一度きり。食べたいものを食べて、やりたいことをやって生きたい。」そう思ったとき、頭に浮かんだのが「飲食業」だった。とはいえ店舗を構えるには資金もリスクも大きい。悩んだ末に選んだのが「キッチンカー」だった。「固定費が少なく、自分のペースで営業できるのが魅力でした。」準備中は資金面、業者との打ち合わせなど大変なことばかり。キッチンカーの完成までに5ヶ月もかかったという。それでも「これで驚かせたい」という思いはブレなかった。「えっ、これで500円!? って言われるお弁当を作ってたんです。」



#### ■「お客様の「おいしかった」が原動力

キッチンカーを始めてからは、生活リズムが大きく変わった。外に出る時間が増え、愛犬と過ごす時間が減ってしまったことは少し気がかりだという。それでも、お客さんの声が支えになっている。「道の駅宗像で買ってくださったご夫婦が、10分後に戻ってきて「おいしかったです！」って声をかけてくれて。そのままお子さんの分も追加で買ってくれたんです。」最近では、新メニュー『レモン珈琲』を飲んだ女性が「もう一杯」と30分後に再訪してくれたことも。「美味しかったから戻ってきた」って言ってもらえると、本当に嬉しいです。」



#### ■「未来の夢と、伝えたいこと

今の夢は「近場にお店を構えること」。一度は諦めた店舗という形。でも、また少しずつ前を向いて考えるようになった。そして、同じように病気や困難に向き合っている人に伝えたいことがある。「やりたいことを我慢しないで。私はヨガを始めて、心が救われました。瞑想や運動もいいですよ。少しでも、心と体が軽くなります。」

#### ■最後に

「昔は料理、全然得意じゃなかったんです(笑)。でも、ある時「自分で作ったほうが美味しいかも」って思ったのがきっかけで、ハマりました。」今では、その手から生まれるどんぶりに、多くの人が笑顔を見せている。仕込みと買い出しに追われる日々、たまの休日はマッサージチェアでのんびり。今日もどこかで、彼女の「笑顔」と「Lotta丼」が、誰かの心と体をあたためている。——いつも笑顔で、皆様に満足していただけるように。—— 彼女のその言葉が、今日もどこかで誰かを元気づけている。



出店スケジュールはHPまたはInstagramでご確認ください♪

